

:・。☆。,・★。,*・。☆。,*・。◦。,*・。☆。,*・★。,*・。



みらいつうしん



1月号

2026年1月1日

田園調布学園大学

みらいこども園

園長 勝浦 芳子

心の豊かさを育てるために

あけましておめでとうございます。いよいよ2026年がスタートいたしました。地域によっては、地震や大雪に見舞われ、多くの方がご苦労されていると報道がありましたが、皆様におかれましては良いお正月を迎えたこととお慶び申し上げます。3学期は子ども達にとって、学年の集大成の学期ですので、大いに実りのある園生活になるよう職員一同力を合わせて教育・保育に向かっていきたいと思います。どうぞ、今年もご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

さて、2026年は、「丙午（ひのえうま）」の年で、情熱と推進力が強く働く年になるといわれています。具体的には、物事を一気に加速させる力があり、隠れていた才能が明るみに出るとことが期待されます。小さな行動が良い方向に広がりやすいので、挑戦や試作することが重要です。「丙午」の年は「勢いがある年」とされる一方で、昔から「暴れ馬」という良くないイメージもある不思議な年で、今年は特に60年に一度の転機が訪れるそうです。今置かれている環境の中で、どう自分が整えていくかが大きな鍵になるようです。この機会に、今まで温めていた目標に向かって力を注ぐと達成できるかもしれませんね。子ども達にも、目標や夢に向かって努力する大切さを伝えていきたいと思います。

昨年の話になりますが、DCUの学生さんから、大学で育てた野菜と手づくりリースとカードが、こども園に届きました。代表で、にじ組の子ども達が、箱から出して「何があるかな？」と、見てみると、小松菜、カブ、大根、カリフラワーなどがたくさん入っていて、びっくり！子ども達は、見たことのない野菜を見て、「これなーに？」と興味津々。野菜を知る良い時間になりました。その後、給食の調理の方に料理してもらい、みんなで美味しいいただきました。リースは、各クラスに配り、お部屋に飾りました。これからも、DCUの学生さんとの交流が続くことを願いたいと思います。

こども園では、絵本の導入をとても大事にしています。日頃の保育の中でも、読み聞かせをしたり、子どもの遊びの一部になったりと、とても身近なものですが、読み聞かせのひと時が、子どもの内面や言葉の力を育てます。絵本の世界に引き込まれ、驚いたり笑ったりすることで、自然にクラスの子ども達の心に一体感が生まれ、情緒的なつながりが強まっていきます。絵本の内容に面白を感じたり、印象に残る言葉を口にしたり、文脈から意味を理解したりする繰り返しから子ども達は、どんどん語彙力の幅を広げていきます。また、絵本の世界に魅了され自分の遊びに取り入れたり、やってみようという意欲も生まれたりします。幼児期の絵本の読み聞かせは、自分で読書ができるまでの大切な糧になりますので、将来、読書を通して、語彙力や論理性、思考力といった、将来にわたって求められる資質・能力に必ず結びつくと考えています。ご家庭でも、短い時間で結構ですから、言葉を一番敏感に吸収する乳幼児期に、絵本の読み聞かせをお勧めします。心の豊かさを育てるのは、周囲の大人の役割だと思っています。



ありがとうのメッセージ

